

群馬県国際理解教育研究会

だより

群馬県国際理解教育研究会
発行責任者 会長 天川 博



平成28年度第2回関東ブロック連絡会議

平成28年11月27日（日）
会場：杉並区立浜田山小学校
司会：三井副会長記録：金子副会長

1. 全海研滝会長あいさつ

- ・日本人学校の教員同士のトラブル2件（当事者1年で帰国）、日本人学校数より補習授業校の方が増加
- ・H29全国大会長野大会（H29.8.3（木）～6（日）より4日間。4日目は地域巡検：松代市東大地震研究所等

2. 全海研本部三井副会長から

- （1）研究・研修：「世界から教室へ」（講話集）※世界及び国内各地の生活の工夫、食品保存の工夫等A4版1枚
- （2）広報「ひまわり」年3～5回発行予定。編集委員会で内容の検討を進めていく。各県からの原稿をよろしく
- （3）事務局 各会議の案内等を発送。各県の資料や刊行物があれば紹介を。

3. 平成28年度神奈川大会の報告（神奈川県国際教育研究協議会）

- （1）大会報告（別紙：開催記録・実施報告書）
- （2）会計報告（別紙）

4. 平成29年度山梨大会に向けて（山梨県国際理解教育研究会）奥山会長より

- （1）期日：平成29年8月19日（土） 会場：山梨県立大学飯田キャンパス（甲府市）
- （2）発表者の分科会の分担：開催県を1番とし、前年度開催県2番のように遡って希望順で決定する。H28は、神奈川が1番目、東京→埼玉→栃木→茨城→群馬→千葉→山梨。神奈川：株式会社立学校「LCA国際小学校」の取組等を継続発表するというので、第3分科会を選択。東京、埼玉、栃木は、最も人選しやすい第1分科会を選択。茨城は欠席。群馬県は、6番目だったので第2分科を希望した。（予定どおり）千葉は、群馬と同じ第2分科会を選択。山梨は2つの分科会を持つわけだが、茨城が第2を選択すると2つとも外国語活動の第3分科会になってしまうので、茨城は第3分科会を持つことになった。

※H29は山梨が1番目なので、群馬県は、7番目になる。第2分科会を考えておいた方がよい。

※関ブロ山梨大会閉会行事で各県の会長あいさつがある。

- （3）平成29年度第1回関ブロ連絡会議：5月28日（日）13：30 会場：山梨県立大学飯田キャンパス（甲府市）

5. 各都県報告・連絡事項（関ブロ開催順）

- （1）神奈川県国際教育研究協議会（神国際研） ※派遣教員セミナー一年4回開催、100名を超える参加もある。
- （2）山梨県国際理解教育研究会
- （3）千葉県海外子女教育国際理解教育研究会（千海研）
- （4）群馬県国際理解教育研究会（別紙）
- （5）茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会（茨海研）
- （6）栃木県国際理解教育研究会
- （7）埼玉県国際理解教育研究会
- （8）東京都海外子女教育・グローバル教育研究会（都海研）

6. 連絡・確認事項等

(1) 今後の全国大会・関東ブロック大会開催都道府県

全国大会	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回	50回
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	(兵庫県)	(長野県)	(千葉県)	(北海道)	(宮崎県)	(富山県)	(東北?)	(東京都)
平成31年								
関東ブロ大会	神奈川	山梨	千葉	群馬	茨城	栃木	埼玉	東京
	27回	28回	29回	30回	31回	32回	33回	34回

(2) 確認事項

- ・関東ブロック連絡会議：平成29年5月28日(日)13:30～ 山梨県立大学飯田キャンパス
〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1 TEL 055-224-5261
- ・分担金 各都道府県から開催都道府県に1万円を5月28日(日)に支払い。
開催県(山梨県)は領収書を準備する。

(3) その他

①メール・HP関連

- ・全海研メールアドレス info1@zenkaiken.jp ・全海研サーバーへの都道府県HP開設は無料。(ただし、会長・事務局長・研究担当・ICT担当・会計担当役員の5名の年会費納入・Emailアドレス報告の義務がある。)

② 全国大会について

第44回全国大会長野大会(H29.8.3(木)～6(日)より4日間。会場：長野市生涯学習センター(トイゴ)
〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町 1271-3 JR長野駅から徒歩約10分 TEL026-233-8080

[1日目] 全国代表者会議(隣県開催なので、会長、事務局長、研究部長、hp担当者は参加)
文部科学省「講話」、実践事例報告、情報交換会

[2日目] 特定課題分科会(1日)

1. グローバル化を推進するネットワーク化
2. 世界の人材を育てる様々なコミュニケーション能力の育成
3. 派遣経験を生かした教育活動
4. グローバル化のための親日家育成プログラムの方向性
5. グローバル化のための在外教育施設のあり方

[3日目] トーキングテーブル(午前中)

講演会(午後)

1. 初めての派遣への道 「グローバル化へ国際感覚を伸長させるための英語
実践教育」 信州大名誉教授 渡邊氏
2. 再派遣・シニア派遣への道
3. 素材・教材化へのネットワーク
4. 未来にわたる在外教育施設

[4日目] 地域巡検：松代市東大地震研究所(第2次世界大戦大本営設営跡)、自然散策等

(4) シニア派遣希望者研修会 平成28年4月30日(土)～5月1日(日) 東京・町田市 ホテル 町田ヴィラ

・第2回研修会全国大会3日目午前中開催(全海研推薦希望者)

◆都道府県の会長推薦(都道府県会長の年会費納入済者)がないと、全海研の推薦ができない。

- ・該当の研修会に参加していない場合は、推薦できない。
- ・文科省も、地元の組織でどう活動したかが大事であると認識。
- ・シニアは、体調管理上「全海研」では一人派遣希望者は、推薦しない。
- ・補習校だけでなく日本人学校へも派遣。増加傾向。
- ・シニア教諭職は、在外未経験者もあるが、教壇からの長期間離脱者は無理。
- ・全海研と在外校とのシニア直接派遣も現在進行中なので、希望者は都道府県でまとめて、推薦してほしい。
(文科省派遣とは別に)

◆現在のシニア派遣者の現状

①世界の地域別校長会を毎年実施。②3年目の校長のやる気無し!

③病気のため赴任して3ヶ月で帰国のシニア派遣者(派遣した県で補充)。

④女性校長が教諭で赴任。1年で帰国させられた。⑤健康管理が大切。人間ドックの評価「A」